




4月-5月のイベント

 三瓶自然館：0854-86-0500  三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500 (さんべ繙文の森ミュージアム)  三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

 ダブルサンプル巡回展示 inサヒメル	3/29  ～ 4/6 	日本の小惑星探査機はやぶさ／はやぶさ2が持ち帰った小惑星イトカワとリュウグウの実物の粒子を展示します。全国のプラネタリウム館をリレーする巡回展示です。	料金：入館料
要予約  はやぶさ2の大冒険 ～3つの小惑星を探査せよ～	4/5  13:15-14:30	小惑星探査機はやぶさ2のプロジェクトマネージャー津田雄一さんに、小惑星リュウグウ探査や今後のはやぶさ2拡張ミッションについて、語っていただきます。	定員：100名 料金：入館料
要予約  春の森であそぼう	4/20  9:30-14:00	キャンプ場で飯盒炊さんにチャレンジ！おにぎり弁当をつくって北の原ヘイクニックにでかけます。 対象：幼児～小学生低学年を含む家族	定員：親子8組 料金：大人300円 小学生以下：100円
 きっずサンデー	4/20  5/18 	島根県の「しまね家庭の日」にあわせ、きっずプラネタリウムやデジタル紙芝居など、キッズ向けイベントが満載の1日。	定員：なし 料金：入館料 ※保護者同伴で小中高生無料
 わくわくワゴン	4/27  5/25  ①13:30～ ②14:30～	普段はさわることができない標本ですが、この日はワゴンに乗って登場！楽しいお話で生き物の不思議にせまります。	定員：なし 料金：入館料
要予約  天体観察会	5/3  ～ 5/5  ①20:00-20:45 ②21:00-21:45	月のクレーターや春に見やすい天体を観察したり、星座を探したりします。 ※4月2日よりwebで予約受付開始	定員：各回60名 料金：大人300円 小中高生：100円
要予約  七輪マグマで火山実験	5/10  13:30-15:30	三瓶山のデイスайトをはじめ、岩石割って標本を作ったり、七輪で加熱し溶かしたりしながら、火山について学びます。 対象：小学生以上	定員：20名 料金：入館料
要予約  バードウォッチング講座 ～さえずりで鳥を識別：基本10種類～	5/11  9:00-12:00	ホオジロやシジュウカラなどの基本的な10種類程度の鳴き声を学ぶ講座。ゆっくりと野外散策をしながら、そのときに見られるさまざまな自然も観察します。	定員：20名 料金：入館料
要予約  春の三瓶山で自然観察登山	5/18  9:00-15:00	東の原から大平山を経由して室内池への登山をしながら自然観察をします。草花や野鳥を中心に季節の自然を観察し、下りは大平山からリフトを利用します。	定員：20名 料金：中学生以上1000円 3歳～小学生以下800円
 カレーフェス in 北の原キャンプ場	5/18  11:00-15:00	県内のカレー店数店がキャンプ場到大集合。大自然の中で島根のカレーを味わえます。 ※カレーはそれぞれの店舗で購入となります	※カレーがなくなり 次第終了します
要予約  飯盒ごはん カレーを食べよう！	5/18  9:30-11:00	飯盒でご飯を炊いてカレーを食べよう！カレーはカレーフェスでお好みのものを購入してください。 ※1カ月前より電話（三瓶自然館）で受付	定員：10組 料金：1組1500円 (お米4合分を含む)
要予約  プラネタリウム100周年 フィナーレ・イベント	5/24  19:00-19:50	プラネタリウム100周年のフィナーレを飾る全国一斉イベント。各地のプラネタリウムをオンラインで結び、100周年の振り返り、全国ルー解説、クイズなどを行います。	定員：100名 料金：大人300円 小中高生100円

※ **要予約** マークのイベントは1ヶ月前より電話にて予約受付を行います。

※イベントが変更・中止の場合はHP等でお知らせします。※毎週土曜日の天体観察会は予約制（HPから、その他はお電話）で実施しています。

※4～11月の毎週土曜日「北の原お散歩ツアー」、日曜日・祝日「天文ミニガイド」は入館された方を対象に予約不要で開催しています。

島根県立三瓶自然館サヒメル

○開館時間/9:30～17:00

○休館日/毎週火曜日

(火曜日が祝日の場合は翌平日)

年末年始、その他、メンテナンス休館あり



三瓶フィールドミュージアムニュース <隔月発行>

編集・発行 **公益財団法人しまね自然と環境財団**

〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8

TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501

<エコサボしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 TEL 0852-67-3262

しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
エコサボしまね（松江事務所）では、地球温暖化対策等の事業を行っています。

Sanbe Field Museum News

さんべ発！

No.189

2025年3月号

島根県立三瓶自然館 ニュースレター



林間の錆びた機械

大田市大屋町の山中に古く、いかつい機械が横たわっています。ここはかつて石こうを産出した鬼村鉾山の跡地。機械は坑道内での作業用に使った発電機の残骸です。

1900年代初頭から 1970年頃まで、大田市と出雲市は近畿以西では唯一の石こう産地として西日本のセメント産業を支えました。セメントの主原料に対して 3%程度の石こうを混ぜることで安定した製品になります。少量ではあるものの欠かせない原料として、高度成長期

までのコンクリート建造物やインフラの整備に大いに貢献したのです。

鬼村鉾山の地元でもその歴史は忘れられつつありました。しかし、地域のみなさんが歴史の解明と記録に取り組み、跡地に残る遺構の存在も少しずつ明らかになっています。人が立ち入ることすら少なくなった山に人々が集い、機械の音が響いた時代があったことを物語る遺構。それは地域史であり、日本の近代産業史の一端なのです。



世界にはおよそ200もの国々があり、どこの国にも国旗があります。そのデザインは、見ていて飽きがこないほど魅力的です。特に、今年(令和7年)は4月13日から10月13日にかけて、大阪府で2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催されることから、いろいろな国の国旗を目にする機会が増えると思います。国旗にはその国の人たちが大切にしている思いや物語、こんな国にしたいという理想、そして宗教や伝統、地域の動植物をはじめとする自然環境などが描かれています。国旗を知ることは、その国を知る第一歩。この企画展では、国旗に描かれたものの中から動植物を中心に、はく製や映像で展示を行い、世界の国々の自然環境の多様性について楽しく紹介します。



ライオンのいる国旗

国旗にはいろいろな動物が描かれていますが、ほ乳類のうち、最も多くの国旗に描かれているのは百獣の王とも呼ばれるライオンです。6カ国6地域の旗に登場します。そのほかウシやウマ、クロテン、ヤギなどが描かれた国旗があります。

◀ライオン
(所蔵:北九州市立自然史・歴史博物館)

▶アカカザリフウチョウ
(所蔵:広島大学総合博物館)



▲オジロワシ

鳥のいる国旗

空をさっそうと飛ぶ鳥は、自由の象徴としてしばしば国旗に登場します。中でも、強さや勇気の象徴とされるワシは最も多く登場し、8カ国2地域の旗に描かれています。ほかには、それぞれの国で国鳥となった美しい鳥たち、アカカザリフウチョウ、ホオジロカンムリヅル、カザリキヌバネドリ(ケツアール)などがあります。



▶ゲッケイジュ

植物のいる国旗

サトウキビ、オリーブ、ヤシの仲間、バナナ、香辛料のナツメグ、良質な木材になるマホガニーの木など、その国が誇る植物が描かれた国旗があります。

また、ゲッケイジュ(月桂樹)は勝利と栄光のシンボルとされることから、植物の中では最も多い10の国の国旗に登場します。

(学芸課天文事業室 矢田 猛士)

サヒメルで化石を探そう！ ～コガネムシの穴掘り痕化石～

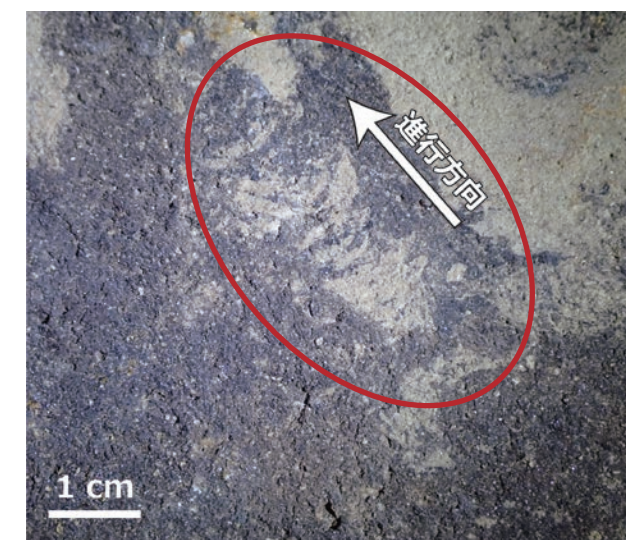
当館新館の階段吹き抜け部分には、地層の剥ぎ取り標本を展示しています。地層の剥ぎ取り標本とは、地層に接着剤を塗って、その上から布などを押しあて、布にくっついた地層を剥ぎ取ったもので、本物の地層と同じように観察できます。この剥ぎ取り標本を見てみると、三瓶山から噴出してきた火山灰などの層と、火山活動が休止していた時期にできた土の層が交互に積み重なって地層ができている様子がよくわかります。

さて、今までに気が付いた人はほとんどいないと思いますが、実はこの地層の中には化石が含まれています。白っぽい火山灰の層と、黒っぽい土の層の境目あたりを観察してみてください。なにやらウネウネとした模様が見えてこないでしょうか。これが化石です。ただし化石と言っても、古生物の身体そのものではなく、足跡や巣穴、排泄物など、生物の行動の痕跡が地層中に保存されたもので、**生痕化石**といえます。

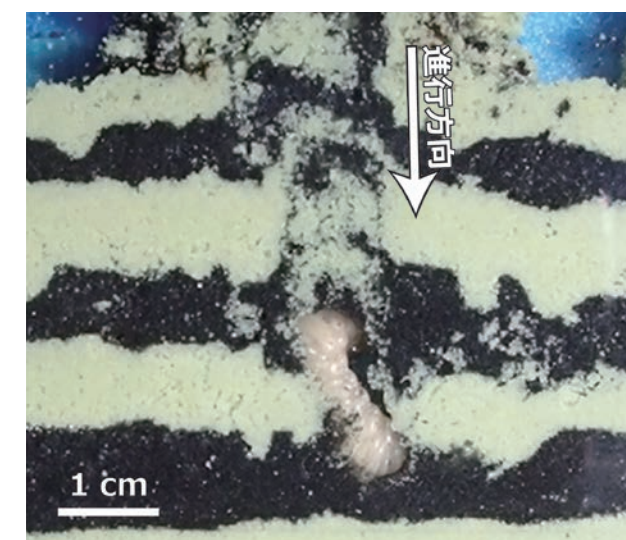
では、この生痕化石はどんな生物のどんな行動によってつくられたものなのでしょうか。私は今のところ、コガネムシの仲間の幼虫が土の中を移動した痕跡ではないかと考えています。コガネムシの仲間の幼虫は、前転を繰り返すように土の中を移動しますが、そのときにできるしま模様によく似た模様が、生痕化石にも見られることが決め手になりました。

三瓶自然館には、これらコガネムシの幼虫がつくり出した生痕化石以外にも、甲殻類の仲間の巣穴など、いくつかの生痕化石があります。三瓶自然館に来た際には、このマニアックな化石探しに挑戦してみませんか？

(学芸課 今井 悟)



▲剥ぎ取り標本に見られるコガネムシの仲間の生痕化石



▲現在のコガネムシの仲間(アオドウガネ)の移動痕